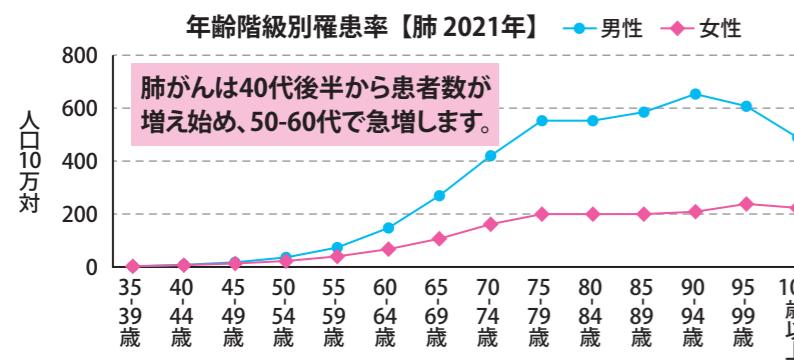


見えない肺のSOS! CTで早期発見を

聖隸予防検診センター 放射線課 係長 金子 裕史
鈴木 麻帆 豊田 真咲

日本において、がんの中で最も多くの命を奪っているのが「肺がん」です。肺がんは咳や血痰、胸痛などの自覚症状が現れたときには、かなり進行している場合があります。そこで有用なのが「胸部CT検査」です。特に肺がんのリスクが高い重喫煙者（1日の平均喫煙本数×喫煙年数が600以上）の方は、年に一度、胸部CT検査を受けることをおすすめします。



がんの部位別死亡数【2023年】

	1位	2位	3位
男性	肺	大腸	胃
女性	大腸	肺	肺臓
男女計	肺	大腸	肺臓

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）

胸部CT検査について

どんな検査？

胸部CT検査はX線を使って、肺の断面画像を撮影する検査です。

どうやって検査するの？

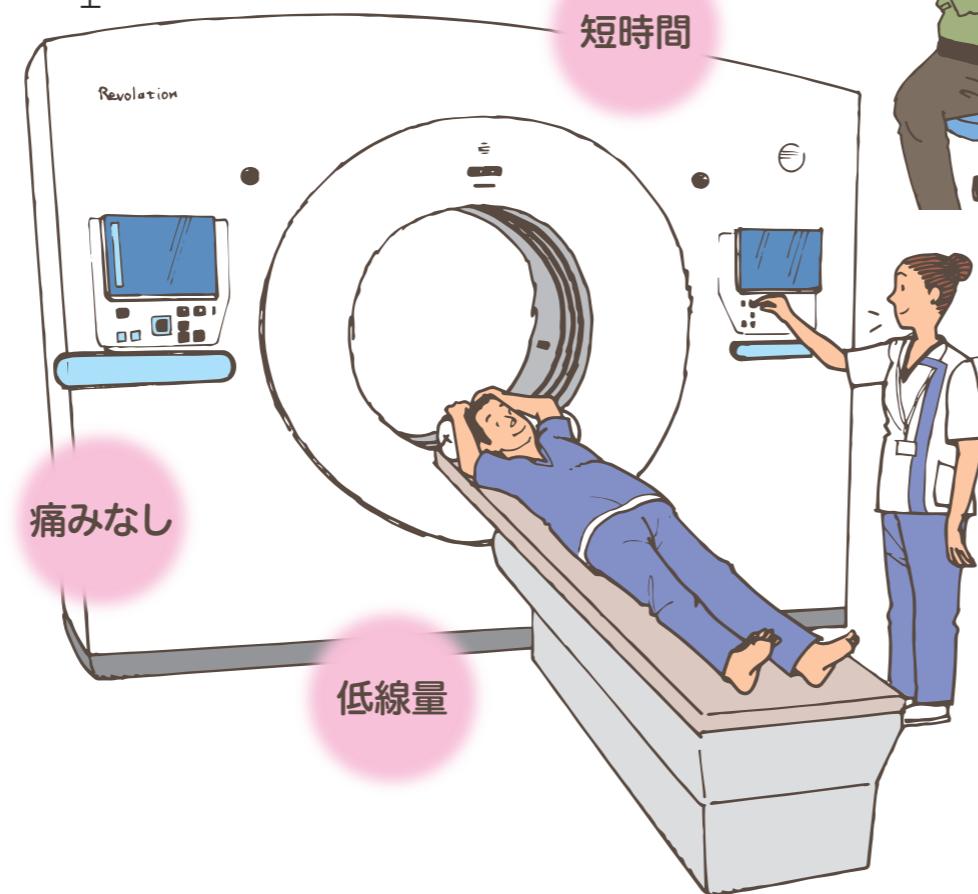
検査時間は入室から退室まで5分程度です。仰向けになり、息を吸って止めた状態で撮影をします。

検査前の注射や飲食の制限などの前処置も不要で、検査中は大きな音もしないため安心して検査を受けていただけます。

どんな病気が発見できる？

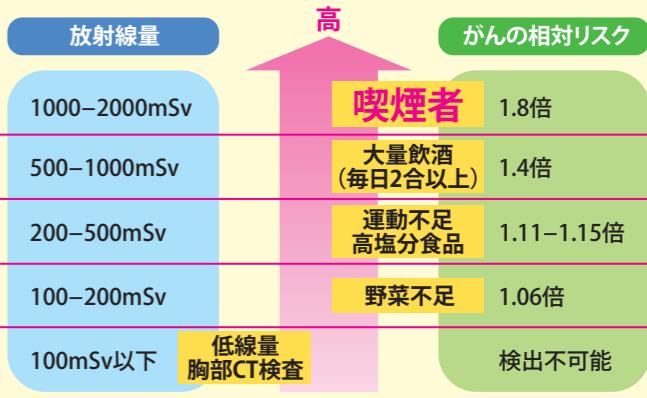
肺がんの早期発見が期待できます。

胸部CT検査は、胸部X線検査では写りにくい、心臓や骨の陰に隠れてしまう小さな腫瘍を見つけることができます。肺がんの発見率は、胸部X線検査と比較して約10倍といわれています。肺がん以外の呼吸器の病気（肺気腫や肺炎など）や、肺以外の病気（血管の動脈硬化など）が見つかる場合もあります。



喫煙 vs 胸部CTの被ばく～肺がんを引き起こすのはどちら?～

一般的な発がんリスク要因がどの程度の被ばく線量に相当するのかを、シーベルト（Sv:放射線の人体への影響を示す単位）に置き換えてみると、喫煙は1,000~2,000mSvの放射線被ばくと同等の発がんリスクがあると推定されています。保健事業部各施設の胸部CT検査での被ばく線量は1.44mGy（約1~2mSv）と、通常のCT検査より被ばく量を抑えた**低線量胸部CT検査**です。なお、100mSv以下の被ばく線量では、発がんリスクは限りなく低いとされています。



参考：環境省 放射線物質汚染廃棄物処理情報サイト
出典データ：国立がん研究センター

特に検査をおすすめるのが重喫煙者の方！



新たなガイドライン

50~74歳の重喫煙者の方は、年に一度、胸部CT検査を受けましょう！

喫煙は肺がんの最大の原因であり、非喫煙者の数倍～十数倍の発がんリスクがあるとされています。

重喫煙者に対する胸部CT検査はX線検査と比較し、死亡率減少効果が認められていることから、2025年4月、国立がん研究センターは喫煙年数が長く喫煙する量も多い人に対し、より詳細に肺の状態を調べられる「CT検査」を推奨する肺がん検診の新たなガイドラインを公表しました。

胸部CT検査は「早期発見」のため
禁煙は「病気にならないため」

禁煙外来のご案内

12週間の間に5回受診するプログラムです（保険適用範囲）

オンライン診療もございます（1回目と5回目のみ通院）

診察の待ち時間ナシ オンライン診療は、診察の待ち時間がゼロです

薬はご自宅にお届け 薬局に行く手間や待ち時間がなくなります

お問合せ・ご予約 聖隸予防検診センター（浜松市中央区三方原町） 053-439-1115・1116
▶診療時間…毎週月曜日 午後／5回目の木曜日 午前も可 ※完全予約制

詳しくはこちる

